

2 麦 類

(1) 要 旨

ア 作付面積

平成29年産4麦（小麦、二条大麦、六条大麦及びはだか麦）の子実用作付面積は27万3,700haで、前年産に比べ2,200ha（1％）減少した（表2－1、図2－1）。

イ 収穫量

平成29年産4麦の子実用収穫量は109万2,000tで、前年産に比べ13万1,000t（14％）増加した（表2－1、図2－1）。

図2－1 4麦（子実用）の作付面積及び収穫量の推移（全国）

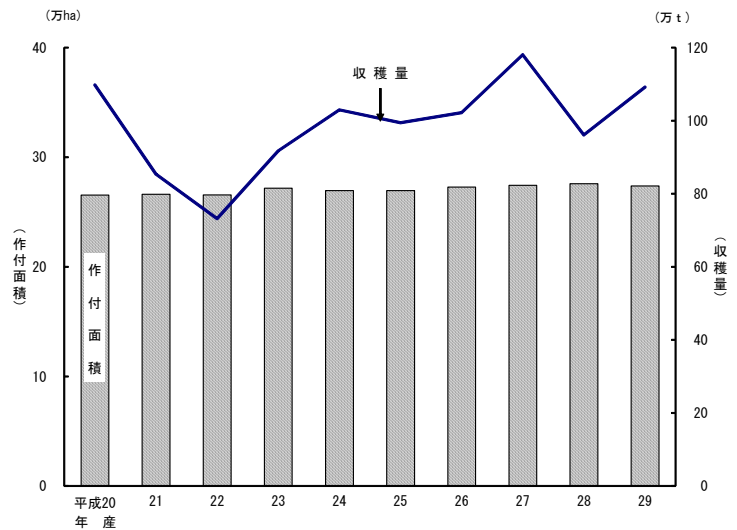


表2－1 平成29年産4麦（子実用）の作付面積、10a当たり収量及び収穫量

区 分	作付面積	10 a 当たり 収 量	収 穫 量	前 年 産 と の 比 較					(参 考)		
				作 付 面 積		10 a 当 たり 収	収 穫 量		10a 当 たり 平均収量	10a 当 たり 平均収量	
				対 差	対 比	対 比	対 差	対 比	対 比	対 比	
	ha	kg	t	ha	%	%	t	%	%	kg	
全 国											
4 麦 計	273,700	...	1,092,000	△ 2,200	99	nc	131,000	114	nc	...	
小 麦	212,300	427	906,700	△ 2,100	99	116	115,900	115	111	384	
二条大麦	38,300	313	119,700	100	100	112	12,900	112	106	295	
六条大麦	18,100	290	52,400	△ 100	99	98	△ 1,200	98	104	278	
はだか麦	4,970	256	12,700	△ 20	100	128	2,700	127	102	251	
北 海 道											
4 麦 計	123,400	...	613,500	△ 1,200	99	nc	82,400	116	nc	...	
小 麦	121,600	500	607,600	△ 1,300	99	117	83,300	116	113	444	
二条大麦	1,720	337	5,800	30	102	85	△ 920	86	102	331	
六条大麦	x	x	x	x	x	x	x	x	x	-	
はだか麦	35	371	130	16	184	106	64	197	110	336	
都 府 県											
4 麦 計	150,400	...	478,200	△ 900	99	nc	48,300	111	nc	...	
小 麦	90,700	330	299,100	△ 800	99	113	32,600	112	111	296	
二条大麦	36,600	311	113,900	100	100	114	13,800	114	106	294	
六条大麦	18,100	290	52,400	△ 100	99	98	△ 1,200	98	104	278	
はだか麦	4,940	253	12,500	△ 30	99	127	2,560	126	101	251	

注：1 「(参考) 10a 当たり平均収量対比」とは、10a 当たり平均収量（原則として直近7か年のうち、最高及び最低を除いた5か年の平均値）に対する当年産の10a 当たり収量の比率である（以下各統計表において同じ。）。

2 全国農業地域別（以下「地域別」という。）の10a 当たり平均収量は、各都府県の10a 当たり平均収量に当年産の作付面積を乗じて求めた平均収穫量を地域別に積み上げ、当年産の地域別作付面積で除して算出している。

表 2-2 平成29年産4麦（子実用）の作付面積、10a 当たり収量及び収穫量（全国農業地域別）

全農地	4 麦 計		小 麦				二 条 大 麦				六 条 大 麦				は だ か 麦			
	作 付 面 積	収 穫 量	作 付 面 積	10 a 当 たり 収 量	収 穫 量	(参考) 10 a 当 たり 均 量 比	作 付 面 積	10 a 当 たり 収 量	収 穫 量	(参考) 10 a 当 たり 均 量 比	作 付 面 積	10 a 当 たり 収 量	収 穫 量	(参考) 10 a 当 たり 均 量 比	作 付 面 積	10 a 当 たり 収 量	収 穫 量	(参考) 10 a 当 たり 均 量 比
国 業 域	ha	t	ha	kg	t	%	ha	kg	t	%	ha	kg	t	%	ha	kg	t	%
全 国	273,700	1,092,000	212,300	427	906,700	111	38,300	313	119,700	106	18,100	290	52,400	104	4,970	256	12,700	102
北 海 道	123,400	613,500	121,600	500	607,600	113	1,720	337	5,800	102	x	x	x	x	35	371	130	110
都 府 県	150,400	478,200	90,700	330	299,100	111	36,600	311	113,900	106	18,100	290	52,400	104	4,940	253	12,500	101
東 北	8,230	21,400	7,040	246	17,300	121	x	275	x	367	1,180	349	4,120	143	1	23	0	nc
北 陸	10,500	29,800	376	234	879	126	9	156	14	108	10,100	286	28,900	98	x	x	x	nc
関 東・東 山	38,700	143,400	21,100	381	80,400	110	12,600	380	47,900	112	4,950	299	14,800	108	96	345	331	136
東 海	16,600	58,400	15,900	356	56,600	117	2	123	3	103	681	247	1,680	103	14	271	38	181
近 畿	10,500	25,700	9,270	242	22,400	102	154	250	385	109	1,030	271	2,790	108	x	206	x	120
中 国	5,700	17,500	2,290	298	6,830	121	2,820	344	9,700	108	91	190	173	112	502	157	788	98
四 国	4,700	14,700	2,050	359	7,360	120	30	280	84	88	x	x	x	nc	2,620	277	7,260	103
九 州	55,400	167,200	32,700	328	107,300	112	21,100	265	55,900	99	12	392	47	118	1,630	243	3,960	105
沖 縄	x	x	23	122	28	67	x	x	x	x	-	-	-	nc	-	-	-	nc

(2) 解 説

ア 小麦（子実用）

(ア) 作付面積

小麦の作付面積は21万2,300haで、前年産に比べ2,100ha（1%）減少した。

このうち、北海道は12万1,600haで、1,300ha（1%）減少した。

また、都府県は9万700haで、前年産に比べ800ha（1%）減少した。

これは、他作物への転換等があったためである（表2-1、2-2、図2-2）。

(イ) 10a 当たり収量

10a 当たり収量は427kgで、前年産に比べ16%上回った。

このうち、北海道は500kgで、前年産に比べ17%上回った。

また、都府県は330kgで、前年産に比べ13%上回った。

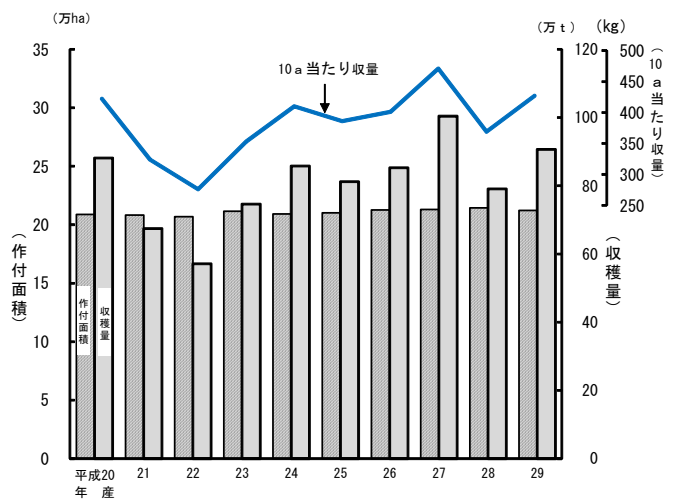
これは、作柄の悪かった前年産に比べおおむね天候に恵まれ、生育が順調で登熟も良好であったためである（表2-1、2-2、図2-2、2-3、2-4）。

(ウ) 収穫量

収穫量は90万6,700 t で、前年産に比べ11万5,900 t（15%）増加した。

このうち、北海道の収穫量は60万7,600tで、前年産に比べ8万3,300 t（16%）増加した。

図 2-2 小麦の作付面積、収穫量及び 10a 当たり収量の推移（全国）



また、都府県の収穫量は29万9,100tで、前年産に比3万2,600t（12%）増加した（表2-1、2-2、図2-2）。

図2-3 平成29年産麦作期間の半旬別
気象経過（帯広）

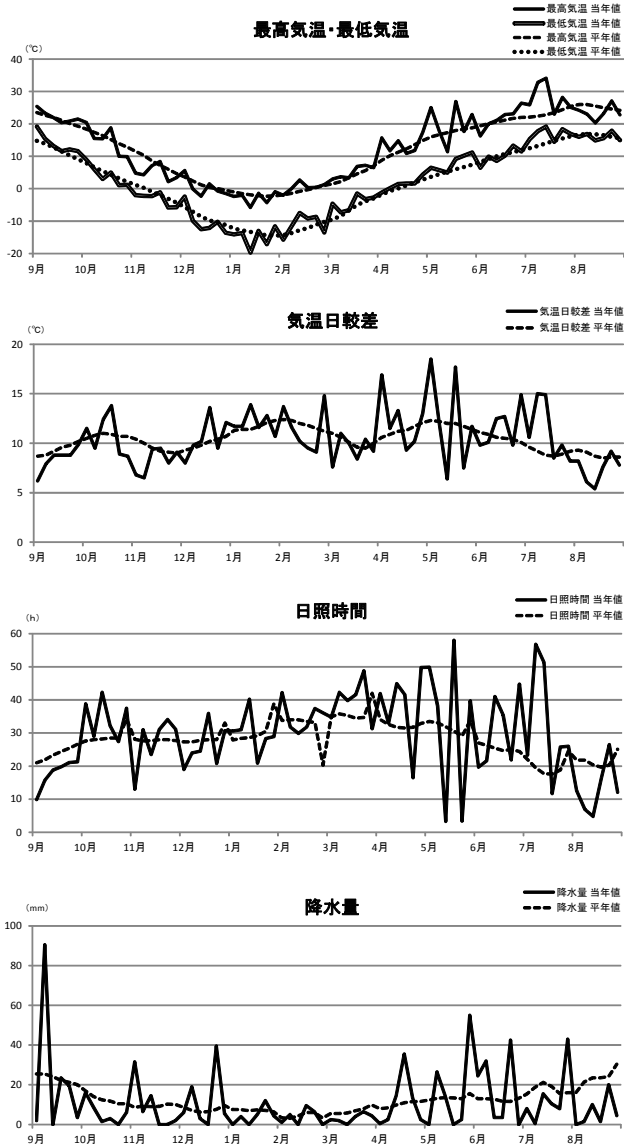
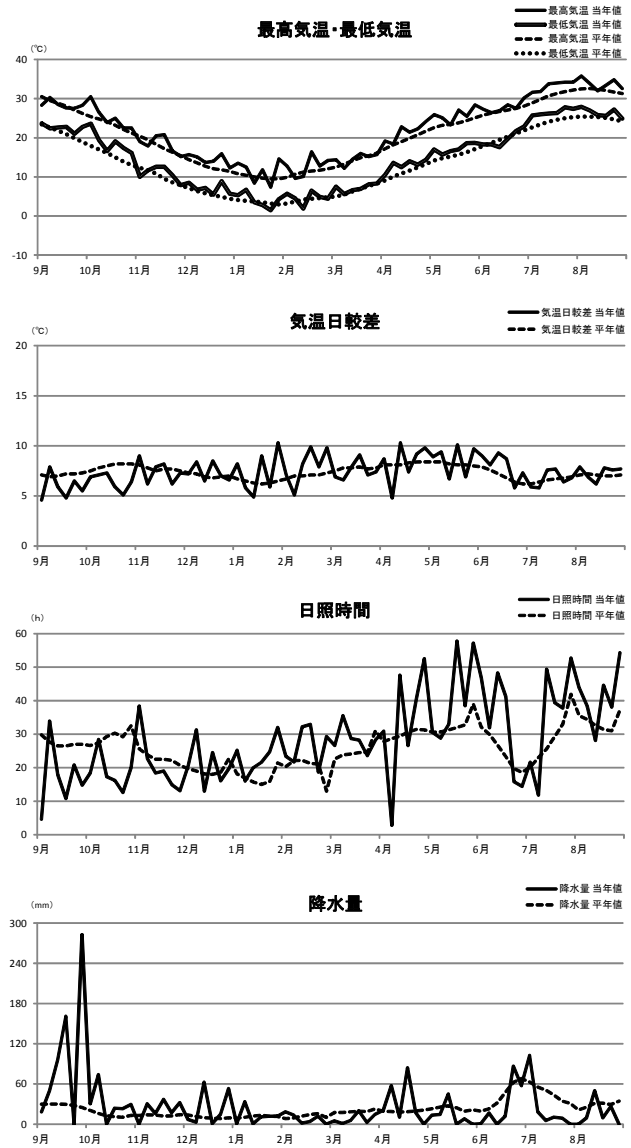


図2-4 平成29年産麦作期間の半旬別
気象経過（福岡）



イ 二条大麦（子実用）

(ア) 作付面積

二条大麦の作付面積は3万8,300haで、前年産並みとなった。

このうち、北海道は1,720haで、前年産に比べ30ha（2%）増加した。

一方、都府県は3万6,600haで、前年産並みであった（表2-1、2-2、図2-5）。

(イ) 10aあたり収量

10aあたり収量は313kgで、前年産に比べ12%上回った。

これは、おおむね天候に恵まれ、生育が順調で登熟も良好であったためである（表2-1、2-2、図2-5、2-6、2-7）。

(ウ) 収穫量

収穫量は11万9,700tで、前年産に比べ1万2,900t（12%）増加した（表2-1、2-2、図2-5）。

図2-5 二条大麦の作付面積、収穫量及び10aあたり収量の推移（全国）

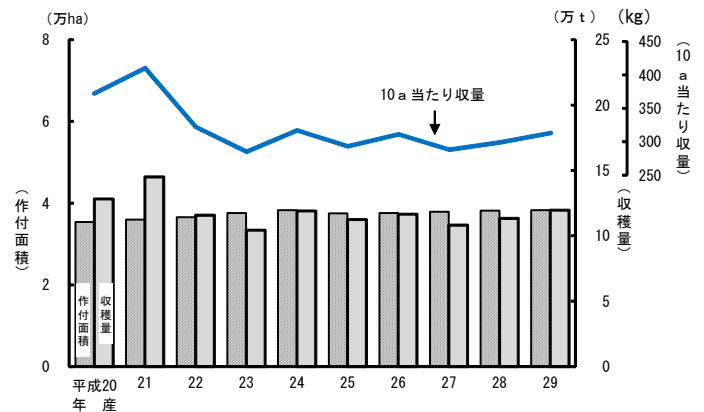


図2-6 平成29年産麦作期間の半月別気象経過（栃木）

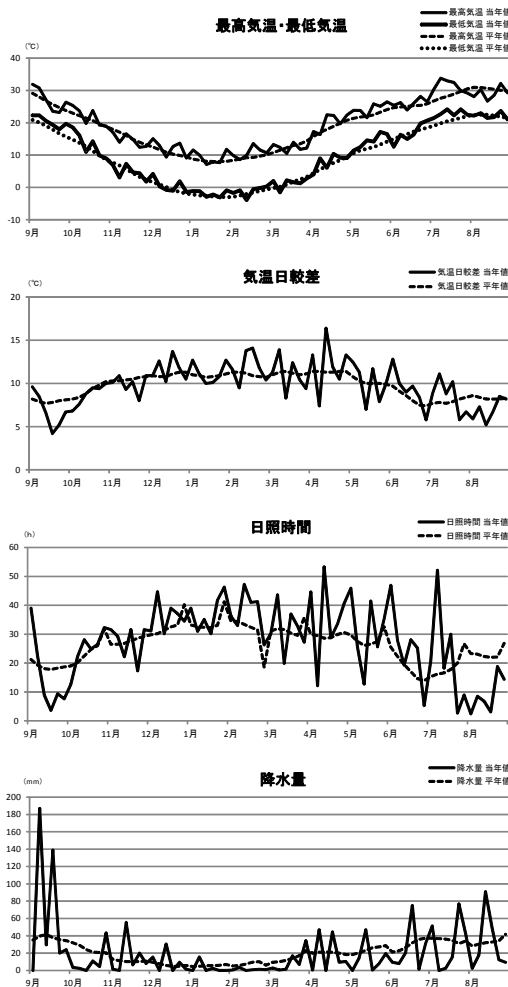
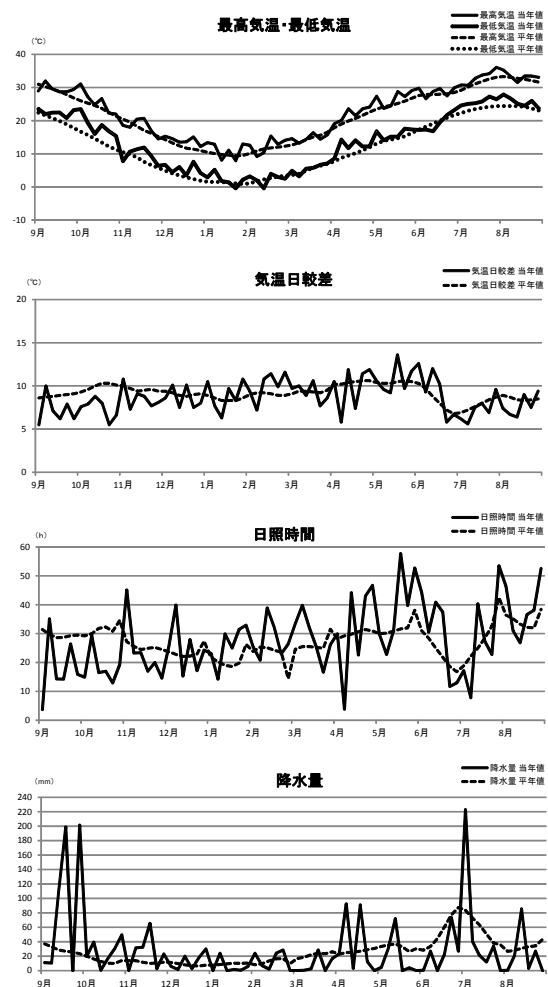


図2-7 平成29年産麦作期間の半月別気象経過（佐賀）



ウ 六条大麦（子実用）

(ア) 作付面積

六条大麦の作付面積は1万8,100haで、100ha（1%）減少した（表2-1、2-2、図2-8）。

(イ) 10aあたり収量

10aあたり収量は290kgで、前年産に比べ2%下回った。

これは、北陸地域において、は種期の降雨による発芽不良により、穂数が少なくなったためである（表2-1、2-2、図2-8、2-9、2-10）。

(ウ) 収穫量

収穫量は5万2,400tで、前年産に比べ1,200t（2%）減少した（表2-1、2-2、図2-8）。

図2-8 六条大麦の作付面積、収穫量及び10aあたり収量の推移（全国）

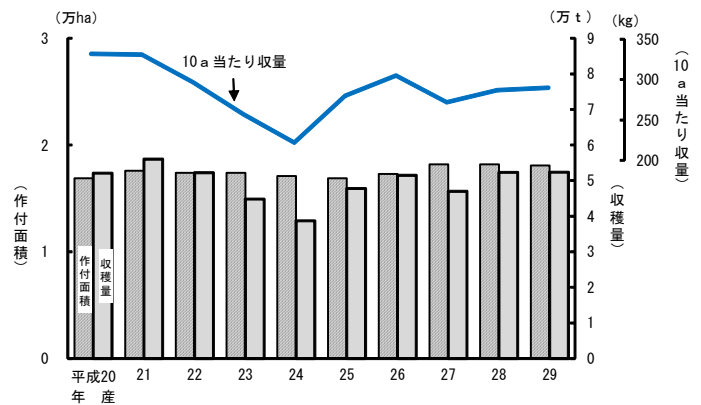


図2-9 平成29年産麦作期間の半月別気象経過（富山）

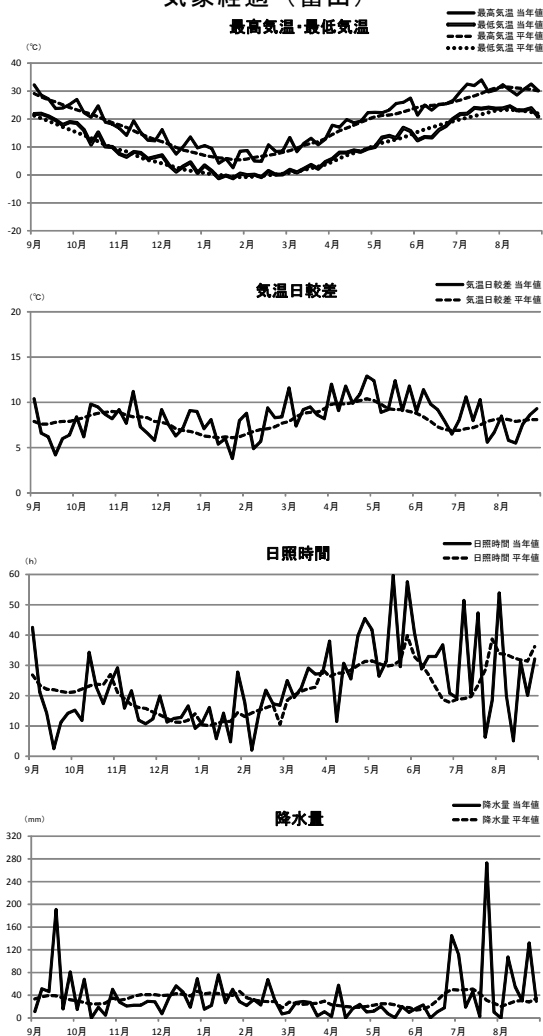
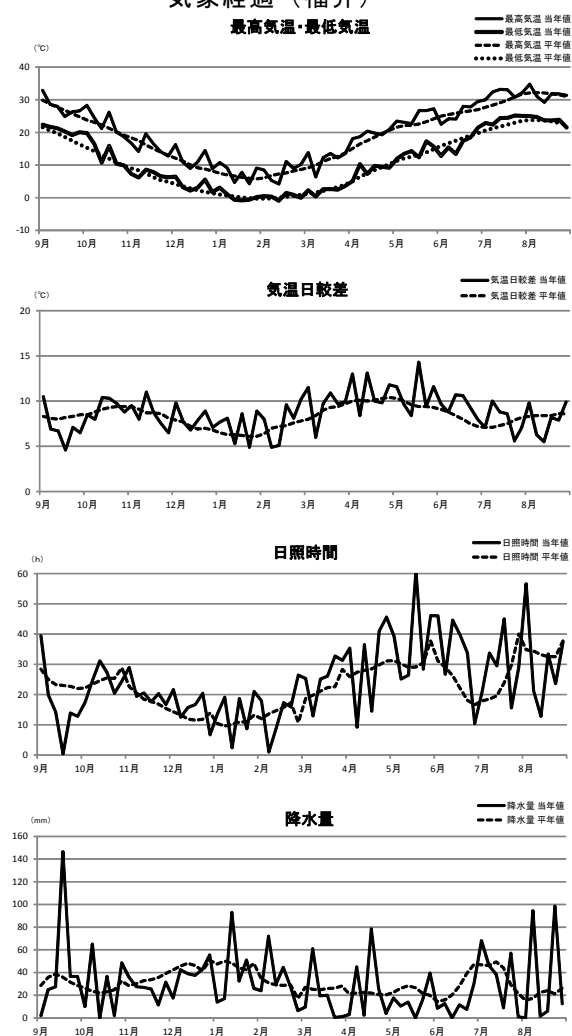


図2-10 平成29年産麦作期間の半月別気象経過（福井）



エ はだか麦（子実用）

(ア) 作付面積

はだか麦の作付面積は4,970haで、前年産並みであった（表2-1、2-2、図2-11）。

(イ) 10a当たり収量

10a当たり収量は256kgで、前年産に比べ28%上回った。

これは、おおむね天候に恵まれ、生育が順調で登熟も良好であったためである（表2-1、2-2、図2-11、2-12、2-13）。

(ウ) 収穫量

収穫量は1万2,700tで、前年産に比べ2,700t（27%）増加した（表2-1、2-2、図2-11）。

図2-11 はだか麦の作付面積、収穫量及び10a当たり収量の推移（全国）

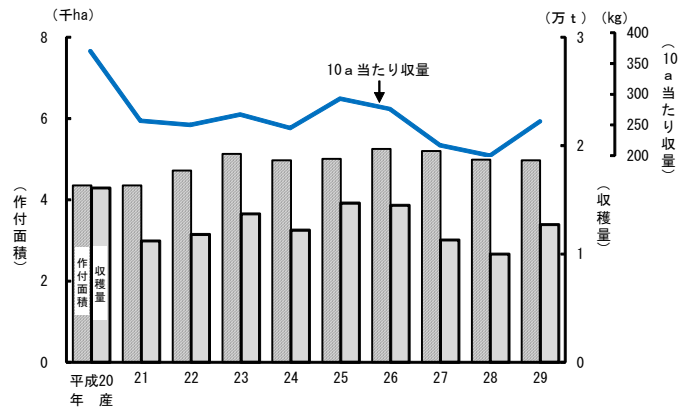


図2-12 平成29年産麦作期間の半月別気象経過（愛媛）

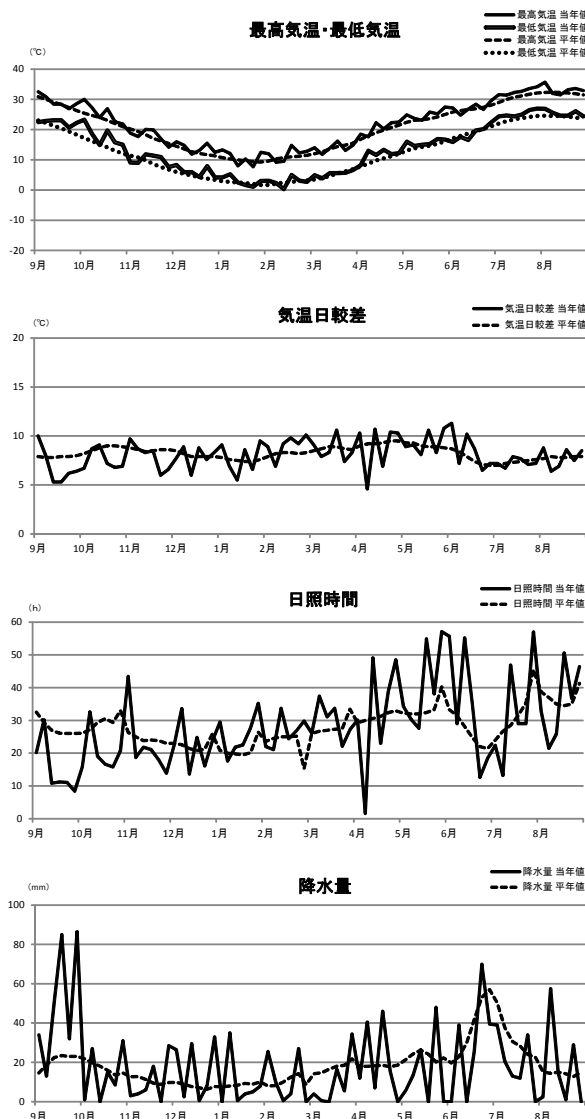


図2-13 平成29年産麦作期間の半月別気象経過（大分）

